
バカとテストと召喚者

?紫苑?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと召喚者

【Nコード】

N4498Y

【作者名】

?紫苑?

【あらすじ】

・・・うん。・・・バカテスの二次創作小説ですね
・・・見ての通り・・・
Bクラス代表になった、一人の男がいた
その名は・・・根本・・・・・・・・・・ではない！

バカテスト 第1問（前書き）

みじかいです

バカテスト 第1問

バカテスト 第1問 化学

問 以下の問いに答えなさい

『調理の為に火にかける鍋を製作するさい。

重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例を一つ挙げなさい』

風早翔、姫路瑞希の答え

「問題点・・・マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応するため危険であるという点
合金の例・・・ジュラルミン」

教師のコメント

正解です。合金なので鉄では駄目という引っかけ問題なのですが、風早ちゃんと姫路さんは引っかけありませんでしたね。

土屋康太の答え

「問題点・・・ガス代を払っていなかったこと」

教師のコメント

そこは問題じゃありません。

吉井明久の答え

「合金の例・・・未来合金（↑すごく強い）」

教師のコメント

すごく強いと言われても。

氷炎怜音の答え

「問題点・・・何でそんなめんどくさいことするの？買えばいいじゃない。」

合金の例・・・過去合金（↑すごく弱い）
のってみた

教師のコメント

すごく弱いといわれても・・・
しかも、そういう問題なので
後・・・のらなくてよろしい！

瀬戸口雪の答え

「ひぐつ・・・わっわかりません・・・
うつうつわ～ん 翔く～ん」

教師のコメント

何も泣かなくても・・・
風早く～ん ヘルプミ～

バカテスト 第1問（後書き）

短いすねw

次はなるべく早めに更新したいと思います

クラス発表！（前書き）

キリのいいところで終わらせるので短いかもしれません

クラス発表！

「氷炎、風早、瀬戸口、おはよう」

玄関の前でドスの聞いた声に呼び止められる。

声のしたほうを見ると、そこには浅黒い肌をした短髪のいかにもスポーツマン然とした男がまっていた

「につしー（西村先生）（おはよう）（おはようございます）（」

「氷炎、今につしーと言わなかったか？」

「？言いましたよ？」

「先生に変なあだ名をつけるな！」

「まあいいじゃないですか」

「はあ まあいい ほら、受け取れ」

先生が箱から封筒を取り出し、差し出してくる。

「あ、どーも」

この紙にはクラスが書いてある

俺はどのクラスかな？

えーと

『氷炎 怜音・・・ Bクラス 代表』

は？ 俺が代表？ マジか・・・

「氷炎、お前手を抜いただろ」

「につしー・・・」

「はて？ なんのことかな？」

「ねえ 翔はクラスどこ？」

「俺は、Bクラスだな」

「マジ？ やった 一緒だよ！」

「そうか。よかった 雪はこのクラスなんだ？」

「わっ私は、Fクラスだった・・・」

「は？ なんで？ お前頭いいじゃん」

「そっそれは・・・緊張しすぎて・・・集中できなくて・・・」

「・・・そうか。じゃあ離れ離れだな」

「・・・うん・・・ひぐっ・・・えぐっ」

「泣くなって、な？ 雪？」

「うっうん」

「俺たち以外の人たちと仲良くなるチャンスだぞ？」

「うっうん！」

こうして俺たちの騒がしい日々は始まった・・・

クラス発表！（後書き）

どうでしたか？

バカテスト 第2問（前書き）

早くも投稿・・・

バカテスト 第2問

バカテスト

国語

第2問

問 以下の意味をもつことわざを答えなさい

- 「(1) 得意なことでも失敗してしまうこと」
- 「(2) 悪いことがあつた上に更に悪いことが起きる喩え」

風早翔、姫路瑞希の答え

- 「(1) 弘法も筆の誤り」
- 「(2) 泣きつ面に蜂」

教師のコメント

正解です。

他にも(1)なら「河童の川流れ」や「猿も木から落ちる」
(2)なら「踏んだり蹴ったり」や「弱り目に祟り目」などがありますね

土屋康太の答え

- 「(1) 弘法の川流れ」

教師のコメント
シュールな光景ですね。

吉井明久の答え
「(2) 泣きつ面蹴ったり」

教師のコメント
君は鬼ですか。

氷炎玲音の答え
「(1) 河童も筆から落ちる」
「(2) 蜂の弱り目蹴ったり」

教師のコメント
まとめても駄目です。
しかも、(2)の答え危険です。

瀬戸口雪の答え

「(1) 弱り目に祟り目」

「(2) 猿も木から落ちる」

教師のコメント

逆でしたね・・・

落ち着いて答えてくださいね

バカテスト 第2問（後書き）

頑張った・・・

でけえゝ（前書き）

更新！

でけえゝ

「・・・でけえゝ 何だろうこのデカイ教室は」

ここは多分Aクラスだろう

おっ知的で美人な先生がいる！
後で話しかけてみようかなあゝ

「じゃあな 雪 がんばれよ？」

「うっうん」

「何かあつたら俺に言えよ？」

「うっうん！」

「じゃあ気を付けてな？」

「うん」

雪と別れて、2年B組と書かれたプレートのある
教室の前に着いた

「この教室も結構デカイな」

「ああ」

「入るか。」

「おう。」

扉を開けると・・・・・・・・・・？

そこはBクラスの教室だった。

そんままじゃん！

「立派だな」

「ああ」

てか、翔今さつきから一言しかしゃべってねんだけど・・・

俺は教室に入り、教室を見回した

ざわざわ

ガラッ

「おはようございます。

私はこのクラスの担任の山下千尋です。
これから1年間よろしくお願いします。」

「「はい」「」」

結構美人な先生だな・・・

「それでは、みなさん自己紹介をしてください」

「相川由美です。

テニス部です」

「岩下律子です。」

2人とも可愛いな・・・

「風早翔です。」

そこにいる代表とは親友です」

翔か。

「菊入真由美です」

ふむふむ。

「和田優です」

「・・・和田陽です」

「僕たちは双子です」

双子か　2人とも可愛いな

優ちゃんは元気っ子で陽ちゃんはクールって感じかな？

ここらへんは同じような紹介だから飛ばすよ

「ツチ！　根本恭二だ」

何か卑怯そうな顔してるなあ

・・・

「最後に代表の氷炎くん、自己紹介してください」

「はーい。 Bクラス代表の氷炎玲音だよ？
俺のことは代表でも氷炎でも好きなように呼んでね？」

「「はーい」「

「ちなみにそこにいる翔は【影】って
呼ばれてるよ？」

「おい！ レオ！」

「えっあいつが！？ いつの間にか近くにいて
相手が気づかないうちに倒すっていう
あの影！？」

「ばらすなよ、【陽】」

「えっ代表は影のパートナーの
陽！？」

あのすごい動きで相手を仕留めるっていう！？」

「おい お前もばらしてんじゃねえかよ」

「レオがばらすからだろ？」

「まあいい」

でけえゝ（後書き）

結構長くかけたかな？

バカテスト 第3問（前書き）

^
^

バカテスト 第3問

バカテスト

英語

第3問

問 以下の英文を訳しなさい。

「This is the bookshelf that my
grandmother
had used regularly」

風早翔、姫路瑞希の答え

「これは私の祖母が愛用していた本棚です」

教師のコメント

正解です。きちんと勉強してますね。

土屋康太の答え

「これは

」

教師のコメント

訳せたのはThisだけですか

吉井明久の答え

「
● ■ ▼ ♪ *
x
」

教師のコメント

出来れば地球上の言語で

氷炎玲音の答え

「これは私の本棚が愛用していた祖母です」

教師のコメント

すごいことになってますよ。答えをよく見直してください

瀬戸口雪の答え

「

」

教師のコメント

まさかの白紙ですか。

・・・ところどころに涙の跡がありますけど・・・

バカテスト 第3問（後書き）

どうでしたか？

DクラスVS Fクラス

・・・次の日・・・

何とあのFクラスがDクラスに宣戦布告した！

なので先生たちはみんなそっちに行ってるので
他のクラスはみんな自習になった

今、俺たちはモニターで
試験召喚戦争の様子を見ている

そんな時

ピンポンパンポン

《連絡いたします》

なんだろ？

《船越先生、船越先生》

《吉井明久くんが体育館裏で待ってます》

・・・？

《生徒と教師の垣根を越えた
男と女の大事な話があるそうです》

「ぷっ あっはっは あの船越女史に・・・」

吉井って奴誰だか知らねーが男だな！

「そういえば 雪もFクラスだったな
大丈夫かな？」

「大丈夫だろ」

・・・戦争の結果は・・・

あの姫路さんがFクラスにいて
一撃でDクラス代表を倒した。

雪は出てなかったけど温存してるのかな？

DクラスVS Fクラス（後書き）

次はバカテストです

バカテスト 第4問

バカテスト

物理

第4問

問 以下の文章の（ ）に正しい言葉を入れなさい

「光は波であつて（ ）である」

瀬戸口雪、風早翔、姫路瑞希の答え

「粒子」

教師のコメント

まさか瀬戸口さんまで

正解するとは思いませんでした・・・

土屋康太の答え

「寄せては返すの」

教師のコメント

君の解答はいつも先生の
度肝を抜きます。

吉井明久の答え

「勇者の武器」

教師のコメント

先生もRPGは好きです。

氷炎玲音の答え

「剣」

教師のコメント

意外と普通の答えでびっくりしました。

あと、なんか光の剣ってありそうですね。

バカテスト 第4問（後書き）

おもしろかったですか？

FクラスVS Bクラス

・・・翌朝・・・

今日はゆっくり授業ができると思っていたら・・・

ガラッ

「僕たちFクラスはBクラスに宣戦布告をします！」

Fクラスからの使者がやってきた

「なんだ てめえ おいみんな！ やっちまえ！」

「根本！ 黙っとけ！」

「君は—— ははっ！ 試召戦争楽しみにしてるよ」
「うっうん！」

Fクラスから宣戦布告されたよ！

初めての試召戦争楽しみだよ

BクラスVS Fクラスの試召戦争が始まった
俺は代表だからあまり動けないけどね・・・

ざわざわ

何だ？ 騒がしいな

【島田が人質に取られた】

は？ 人質？

「・・・翔 行つて来い！」

「ああ （キレてるなこれは）」

「お前ら何してやがる

そんな卑怯なことまでして

勝ちたいのか！ てめえらは！」

「いやっ だって根本が代表が
人質とれって言ったって・・・」

「くそっ 根本のヤロウ」

何考えてやがる 根本のヤロウ

ほかにも、根本は勝手に協定をたて、
今は休戦中だ

くそっ 根本のヤロウ 勝手に
何してやがんだ

・・・Cクラスが怪しいな

Cクラスの代表は根本の彼女だって
聞いたことあるし、

行くか Cクラス

ガチャ

「ね・も・とくくん いる〜?」

「ツチ 氷炎!」

「てめえさ 何勝手にやつちゃってくれてんのお〜」

「っ! てめーにはかんけーねーだろ!」

「ありあんだけど? 俺、Bクラスの代表だぜ?

だけど、お前が勝手に協定たてたり? 人質とつたり?」

「恭二 今の本当?」

「・・・」

「へえ〜 本当なの・・・」

「とっ友香違うんだ!」

「何が?」

「えっえつと——」

「根本君・・・別れましょう?」

「なっ何で?」

「卑怯だとは分かっていたけどそこまで卑怯だとは
おもわなかったわ」

「・・・」

いいこと言っじゃん 小山さん・・・

「小山さん？ 何でこいつなんかと付き合ってたの？」

「頭がいいほうが色々いいから・・・」

「こいつより頭がいい人はたくさんいるよ？」

「そっそうね (ノノノよっよくみれば この人かっこいいわね)」

「おっおい友香？」

「ギロツ うるさい、呼び捨てにしないで！」

「おっおい？」

「ざまあみる 卑怯なことばっかしてるから
彼女に振られるんだよ」

「そっそんな バカな・・・」

・・・w

ガラッ

「Fクラス代表の坂本だ このクラスの代表は？」

「私だけど？」

「あっ！ てめっ！ 根本！ 何でここに居やがる！」

俺はとつくにCクラスの人たちに
紛れ込んでるぜ！

FクラスVS Bクラス（後書き）

どうでした？

気づいた人は気づいたかもしれませんが
雪は翔のヒロインに変更しました
そっちのほうがやりやすいと思ったので・・・

根本 さようなら

・・・翌朝・・・

戦争は開始された。

あつ 根本が手紙らしきものを手に持っている
その目線の先には
姫路の姿が・・・
根本を見ておびえているようだ

・・・根本くん 後ろ隙だらけだよ？

俺は根本が持っている手紙を後ろから
取った

「あつ！？ てめっ 氷炎！ 昨日はよくも
「これは何かな 根本く～ん！」
「そっそれは――」

俺は根本の首根っこをつかみ
姫路のもとへ歩き出した

「おい！ てめっ！ はなせ！」
「やだね！」

俺は根本よりかなり身長が高いので
根本は宙に浮いている

そして姫路の前で立ち止まる

「姫路さん これ君の？」

「はっはい！」

やっぱりね 根本、君は絶対に許さねーぞ

「はい これ返すよ。 ごめんね こいつがとっちゃって
「いっいえ ありがとうございます！」

「姫路さんどうしたの？」

「君はBクラスの――」

「君は宣戦布告してきた子だね」

「あっ！ うん！」

僕はFクラスの吉井明久

君たちは？」

「俺はBクラスの風早翔」

「俺はBクラス代表の氷炎玲音」

「えっ代表！？ 根本君じゃ？――」

「こいつが？をついていたんだよ」

「おい！ 何している！ 明久！」

「あっ 雄二！ Bクラスの代表って

根本くんじゃないんだって」

「何だと！」

「ごめんね。俺が代表なんだ

根本がいろいろとものを壊したりして
ごめんなさい。」

「お前がやったんじゃないんだろ？」
「うん」

俺が気づかなかったのが悪いんだ
代表なのに・・・

「鉄人！」

「鉄人って呼ぶな！ でなんだ？」

「こいつ・・・根本が
代表を偽ったり、カンニングしたり、
ものを壊したり、人を脅したりと
色々なことをしてるけど？」

「何！？ それは本当か？」

「ああ」

「ちよつと来い！」

につしーに根本が連行されていった
まあこれでよかったのかな？

「坂本、俺たちBクラスは棄権する」

「何？ 何でだ？」

「まあ お詫びかな？」

「そうか。 なら、設備交換はしないで、代わりに
根本の末路でいい」

「そうか。 につしーがつれていったから
もう終わりだけだなw」

「それはいえてるなw」

そういえば、氷炎と風早は瀬戸口と幼馴染何だっけ？」

いがいとこの場にいました。風早君w 空気です

「よくしってるな」

「まあな 瀬戸口が泣くたびに
シヨウくん、レオくんというからな」

「そうか。 雪は友達出来てるか？」（↑シヨウ

「ああ Fクラスには女子が3人しかいないから
すぐ、仲良くなったみたいだぞ？」

「そうか。 よかった。 なあ 坂本？」（↑レオ

「雄二でいいぞ？」

「じゃあ俺もレオでいい。」

次の狙いはAクラスだろ？」

「っ！？ 何でそれを・・・」

「ははっ 勘だ」

「そうか。 じゃあなあ？」

「ああ」

結局、根本はにっしーによって

尊敬する人物は二宮金次郎

趣味は勉強というように洗脳された上に

退学処分をうけた

あの時は笑ったなあ

根本が髪型を七三分けにして

ピン底メガネをかけていた姿を
見たときはみんな爆笑だったなw

根本 さようなら（後書き）

根本、さようなら

バカテスト 第5問

バカテスト

保健体育

第5問

問 以下の問いに答えなさい。

「女性は何歳を迎えることで
第二次性徴期になり、特有の体つきになり始める」

瀬戸口雪、姫路瑞希の答え

「初潮」

教師のコメント

正解です

吉井明久の答え

「明日」

教師のコメント
ずいぶんと急な話ですね

風早翔の答え

「

」

教師のコメント
あなたが白紙ですか。 意外に初心なんですね

レオのコメント
ちがうよ？ 翔はヘタレなだけだよ？

シヨウの言い訳
違う！

氷炎玲音の答え

「男」

教師のコメント

・・・生々しいですね・・・

土屋康太の答え

「初潮と呼ばれる、生まれて初めての生理」

教師のコメント

長いですし、詳しくすぎです。

バカテスト

生物

第6問

問 以下の問いに答えなさい

「人が生きていく上で必要となる五大栄養素を答えなさい」

姫路瑞希の答え

「？脂質 ？炭水化物 ？タンパク質 ？ビタミン ？ミネラル」

教師のコメント

さすがは姫路さん。優秀ですね。

あれっ？ 風早君は？

吉井明久の答え

「？砂糖　？塩　？水道水　？雨水　？湧き水」

教師のコメント

それで生きていけるのは君だけです

風早翔の答え

「？脂質　？炭水化物　？タンパク質　？ビタミン　？ミネラル
？親友」

教師のコメント
友達思いですね

瀬戸口雪の答え

「？脂質　？炭水化物　？タンパク質　？ビタミン　？ミネラル
？シヨウくん、レオくん」

教師のコメント

・・・まあ　そうでしょうね・・・

氷炎玲音の答え

「？女の子　？友達　？親友　？食べ物、飲み物　？三大欲求」

教師のコメント

・・・はい。

土屋康太の答え

「初潮年齢が十歳未満のときは早発月経と」

教師のコメント
保健体育のテストはもう終わりました。

FクラスvsAクラス

今日はついにFクラスvsAクラスの戦争だ

今、俺はAクラスの高い位置にある

窓に座って観戦している

横には翔もいるけどな？

始まった・・・

「では、両名共準備は良いですか？」

あの、美人なAクラス担任かつ学年主任の

高橋先生が立会人を務める。

「ああ」

「・・・問題ない」

雄二の前にたつのは学年主席の

霧島翔子さん。美人だけどちょっと苦手だ。

「それでは一人目の方、どうぞ」

「アタシから行くよっ」

Aクラスからは木下優子さん。

かわいいな

Fクラスからは・・・

「ワシがやろっ」

木下秀吉くん？（さん？）

双子かぁ そっくりだな。

てか、俺たちのまわり双子率高くね？

Bクラスに1組、F、Aクラスに1組

そして、俺の兄妹に1組

「試験召喚」(サモン)

『Aクラス

木下優子

古典

319点

VS

Fクラス

木下秀吉

72点

ザシュッ

おお秀吉くんが一撃でやられたよ

「では、次の方どうぞ」

「私がです。科目は物理でお願いします」

Aクラスからは佐藤美穂さん。

Fクラスからは、

「よし。頼んだぞ、明久」

「えっ！？ 僕！？」

明久だった。 大丈夫かなあ

「大丈夫だ。俺はお前を信じている」

自信たつぷりの雄二。

明久ってそんなにすごいのか？

観察処分者って聞いたけど・・・

「ふう・・・・・・・・。やれやれ、僕に本気を出せってこと？」

「ああ。もう隠さなくてもいいだろう。この場にいる全員に、お前の本気を見せてやれ」

そう明久に言うと雄二はチラッと俺のほうを見て

ニヤリと笑った。

まさかここにいたことがばれてるとは・・・

こっちを見て笑ったってことは

何か考えがあるんだろう

「吉井くんでしたか？あなた、まさか・・・」

佐藤さんが明久に言う

「あれ、気付いた？ご名答。今までの僕は全然本気なんて出しちゃあいない」

「それじゃあなたは・・・!!」

「そうさ。君の想像通りだよ。今まで隠してきたけれど、
実は僕」

何だ？

「——左利きなんだ」

おっと危ねえ思わず窓から落ちかけちゃったぜ

隣にいる翔は肩を震わせて笑ってるし・・・

『Aクラス

佐藤美穂

物理

389点

VS

Fクラス

吉井明久

62点
』

「よし、勝負はここからだ」

「ちょっと待った雄二！アンタ僕を全然信用してなかったでしょう！」

「信頼？何ソレ？食えんの？」

こういうことが雄二。

今さっきこっち向いて笑った意味は・・・

ナイスだ。
雄二！

FクラスvsAクラス2（前書き）

実は今テスト期間中でパソコン禁止なんですけど・・・
すきを見てしてますw

FクラスvsAクラス2

「では、3人目の方どうぞ」

「・・・・・・・・・・（スック）」

Fクラスからはムッツリーニと呼ばれる土屋康太が立ち上がった。

「じゃ、ボクが行こうかな」

Aクラスからは工藤愛子が出てきた

「一年の終わりに転入してきた工藤愛子です。よろしくね」

「教科は何にしますか？」

「・・・・・・・・・・保健体育」

ムッツリーニの唯一にして最強の武器が選択される。

「土屋君だっけ？随分と保健体育が得意みたいだね」

工藤さんがムッツリー二に話しかける

俺のほう得意だけどな（保健体育 782点）

「でも、ボクだってかなり得意なんだよ？
・・・キミとは違って実技でね」

ほう。実技が得意なボクっ娘か

「そろそろ召喚を開始してください」

「はい。試験^{サモン}召喚と」

「・・・試験^{サモン}召喚」

二人に似た召喚獣が

それぞれ武器を手に持って出現する。

ムッツリー二は小太刀の二刀流。

一方工藤さんは、

「なんだあの巨大な斧は!？」

見るからに破壊力抜群の巨大な斧、

しかも腕輪までしている。

・・・腕輪とは、400点以上を取ると

特殊能力を使える腕輪を装備して出てくるのだ。

こいつも結構出来るな・・・

「実践派と理論派、どっちが強いか見せてあげるよ」

工藤さんが艶っぽく笑いかけると同時に、

腕輪を光らせながら召喚獣が動いた。

巨大な斧に電光をまとわせ、ありえない

スピードでムツツリー二の召喚獣に詰め寄る。

「それじゃ、バイバイ。ムツリーニくん」

・・・そついえば俺たちって一回も召喚獣出してないよな
どんな武器なのか気になるな・・・

「・・・・・・・・加速」

ムツリーニの腕輪が輝き、彼の召喚獣がブレた。

「・・・・・・・・え？」

「・・・・・・・・加速終了」

ボソリとムツリーニのがつぶやく。

一呼吸おいて、工藤さんの召喚獣が

全身から血を噴き出して倒れた。

「Aクラス

工藤愛子

保健体育

446点

VS

Fクラス

土屋康太

572点
」

ふう〜ん。

結構やるじゃん

「そっそんな……！」

この、ボクが………！」

工藤さんが床に膝をつく。相当ショックみたいだ。

Fクラス vs Aクラス2（後書き）

短いすかね？

FクラスvsAクラス3

「これで2対1ですね。次の方は？」

誰だろう？

「じゃあDクラス戦の時は姫路だったから、
今度は瀬戸口が行って来い」

ついに雪か だいじょうぶかなあ

「うつうつん！がっ頑張る！」

「ああ頑張ってこい」

ふう〜ん 結構打ち解けてんじゃん

「それなら僕が相手しよう」

Aクラスから歩み出てきたのは——久保利光！

「やはり来たか、学年次席」

「科目はどうしますか？」

「総合科目でお願いします。」

「えっゆっ雪ちゃん？だっ大丈夫なの？」

「はっはい！」

「Aクラス 久保利光 総合科目 3997点」

VS

Fクラス 瀬戸口雪 4529点」

『はっ？』

『いつのまにこんな点数を！？』

『雪ちゃんって頭良かったの!?!』

至るところから驚きの声上がる

「すごいぞ瀬戸口! まさかここまですごいとは・・・」

チラリと雄二がこっちに視線を向けてきたので

俺と翔はニヤリと返してあげた

「あっありがとうございます。」

「これで2対2です」

高橋先生の表情にも若干変化が見られた。

「最後の一人、どうぞ」

「・・・・・・はい」

AクラスからはAクラス代表、霧島翔子さん

そしてFクラスからは当然、

「俺の出番だな」

Fクラス代表、坂本雄二だ

「教科はどうしますか？」

「教科は日本史、内容は小学生レベルで方式は百点満点の上限ありだ」

？小学生レベルの問題？

どうしてだ？まあ雄二のことだから

いろいろ考えがあるんだろうな

高橋先生は問題を用意するために

教室を出て行った

「雄二。まとは任せたよ」

明久がいう

「ああ任された」

雄二が答える

そして雄二がチラッとこつちを見てきたので

俺たちはピースサインをしてやった。

すると雄二は小さくうなずいた。

まあここでピースを返されると

他の人にばれるからな

「では、最後の勝負、日本史を行います。参加者の霧島さんと坂本君は視聴覚室に向かってください」

高橋先生が戻ってきた。

「・・・・・・・・はい」

短く返事をし、霧島さんが教室を出て行った。

「じゃ、行ってくるか」

がんばれよ、雄二！

これでいよいよ決着だ

泣いても笑っても、試召戦争が終了する

「皆さんはここでモニターを見ていてください」

ディスプレイに問題が映し出される。

【次の（ ）に正しい年号を記入しなさい】

（ ）年 平城京に遷都^{せんと}

（ ）年 平安京に遷都

・
・
・
・
・
・

（ ）年 鎌倉幕府設立

（ ）年 大化の改新

「あ・・・・・！」

・
・
・

『これで!』

『システムデスクに!』

『うおおおっ!』

うお!?!なんだ!?

《日本史

勝負

限定テスト

100点満点》

《Aクラス

霧島翔子

97点》

VS

《Fクラス

坂本雄二

53点》

Fクラスの卓袱台がみかん箱になった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4498y/>

バカとテストと召喚者

2011年12月2日20時56分発行